

子どもの重要発達期 子ども時代には「感性」「身体」「知性」「社会性」の発達において、とくに重要な時期があります。ただし乳児・幼児期の五感体験の豊かさが児童期の学力や社会力の発達の礎になるように、それぞれの力は相互に作用しあって発達します。

子どもの発達段階	乳児期	幼児期前期	幼児期後期	児童期前期	児童期後期	青年期
感性 創造力・好奇心・情緒力・表現力・五感(体感力)など	五感を育む 乳児期～幼児期前期	脳・神経系が急発達。泣く・笑うといった言動で欲求を表現する。親への信頼感を築く。	運動・言語能力が発達。情緒の核を完成して自我が芽生え、自己主張をする。第一次反抗期。	手足の動作が安定。自主性が高まり、何でも自分でやりたがる。友だちと集団遊びができる。	手先の巧緻性が増し、体力がつく。学習などに勤勉に取り組んだり、生き物の飼育ができる。	男女差やプライバシーを意識。論理的知力、文化的な感性が備わる。友だちの存在が大きくなる。
身体 健康性・運動能力・危機回避力・器用性・立ち居振る舞いなど	身体の基本づくり 乳児期～幼児期後期	なめる・口に入れる・つかむ・聞くといった、五感への刺激をたっぷり受けることで脳を発達させ、感覚器官そのものも成長させる。	ハイハイから立ち上がり、二足歩行でのバランスを身につけ、身体機能のベースを形成。児童期後期～青年期にかけては、男女の違いが明確になる。	第二次性徴 児童期後期～青年期		
知性 論理的思考力・創造力・行動力・自発性・主体性など		児童期前期頃までは、創造的なことに興味を向け、さまざまなことにチャレンジする意欲にあふれる。後期以降は、複合的な思考力も深まってくる。	創造力・思考力を身につける 幼児期後期～児童期後期			
社会性 コミュニケーション力・協調性・適応力・共感力など		乳児期に自己と他者との関係性の基礎となる基本的信頼感を築く。児童期後期頃からは家族とのかわりをベースに、友だちなどとの交流を通して自立心や適応力を養う。	社会的自立の準備 児童期後期～青年期			

生活リテラシー。

～自分流の豊かさを見つける才能～



積水ハウスでは、1990年、けいはんな学研都市に総合住宅研究所を設立。住宅の基本性能を担う「技術研究所」、体験型すまいづくりの研究拠点「納得工房」、地球温暖化防止に取り組む「温暖化防止研究所」、そして、一人ひとりの豊かな暮らしと住まいをプロデュースする「ハートフル生活研究所」の4つの研究所で構成されています。ハートフル生活研究所の研究概念の1つに「生活リテラシー」があります。「生活リテラシー」とは、情報の新しさにとらわれることなく、本質的なものに目を向け、いろいろな価値観や知識に触れ、生き方を深めていく術。それは、本当の自分らしさ、自分らしい豊かさを見つける力の源。いわば「自分流の豊かさを見つける才能」のことです。これから数回に分け、上質な暮らしを提案するグランドメゾンの根底に流れる、「生活リテラシー」のエッセンスをお伝えします。

キッズデザイン賞とは

キッズデザイン賞は、子どもの安全・安心の向上、健全な成長発達に役立つデザイン(製品、コンテンツ、活動など)を顕彰し、表彰作品には「キッズデザインマーク」が付与されます。産官学民が「デザイン」の力を通じて生み出した子どもたちのための成果について、社会的、文化的な価値の見地から評価し、その優れたものの顕彰を通じて、産業・研究活動と子ども環境の高度化を図ることを目的としています。



キッズデザイン賞を受賞

積水ハウスでは、「子どもの生きる力を育む住環境」を、「キッズデザイン」として発表・提案し、2007年8月、「第一回キッズデザイン賞」を受賞いたしました。この取り組みと考え方は、グランドメゾンにも取り入れられています。

ハートフル生活研究所の研究内容をご紹介します。

- 新しい暮らしと住まいの研究
 - ライフスタイル ■快眠 ■ペット
 - 子ども住環境 ■家事 ■シニア居住研究
- 暮らしの安全安心の研究
 - ユニバーサルデザイン ■防犯 ■防災
- 環境にやさしい暮らしの研究
 - ガーデンライフ ■スローライフ ■インドアグリーン



青年期は社会的自立の準備期。ひとりで過ごす空間を持つことが大切です。自分自身で空間をマネジメントすることで知性や社会性をより高めていきます。一方、家族と過ごす空間も、同様に大切。より居心地良くしつらえたいものです。リビングシアターで映画を楽しんだり、家族が自然に集まり、それぞれがゆったり寛げる環境作りをしてみましょ。

自然との豊かなつながりを持つ。
住まいの中だけではなく、街中の森や水辺など、身近にある自然との豊かなつながりからも、子どもの「生きる力」が育まれていきます。家族で収穫や手入れが楽しめる菜園ガーデンは、食育に理想的です。たとえ都心居住であっても、土や緑とふれあえる環境をつくるのが重要です。

乳・幼児期は、いつも家族と一緒にいるリビング空間のあり方が大切です。親との信頼関係を築いていくこの時期、家族という安心感の中で過ごせることが最も大事。全身を使った遊びを存分に楽しむことで五感を刺激し、感性や身体能力を育てる環境作りを心掛けてみましょう。

成長にあわせて住環境を変えていく。
積水ハウスは、親の視点から考えた「子育て」はもちろん、子どもが自身の体験を通じて成長しようとする「子育て」の視点を大切にしています。では、子どもが豊かな体験を重ねながら、自ら成長する力、生きる力を育む住環境とは一体どのようなものでしょうか？

この頃は、勉強の習慣づけにも大切な時期。親の目が届きにくい子ども部屋だけでなく、リビングに親子で並んで学習できるデスクコーナーを設けると、子どもたちは安心して学習に取り組むことができます。

小学校に入る児童期になると、一緒にいることだけでなく、「一緒にする」ことも大切になってきます。キッチンでお料理を手伝ったり、お片づけをしたり。家族と一緒にさまざまな体験をすることで、創造力や思考力が育まれていきます。また、家族とのコミュニケーションを通して、社会性も育まれていきます。

***生活リテラシー**
Literacy(英語本来の意味は、読み書きの能力)。OECD(経済協力開発機構)はその意味を拡大し、「生きるために必要な知識・技能・教養」と定義。私たち積水ハウスは、この言葉に「生活」を冠し、「生活リテラシー」という新しい概念を作りました。それは、暮らしと住まいをより豊かにする力…知識、教養、ノウハウという意味を含め、「自分流の豊かさを見つける才能」と呼んでいます。

第一回 子どもの生きる力を育む住環境。